

ジュアル循環器疾患. 東京：成美堂出版, 2012. p.88-91, 96-101.

- 5) 川田典靖, 橋本和弘, 第2部：疾患別の病態・術式・管理のポイント 1章：弁膜疾患の病態・術式・管理のポイント 大動脈弁疾患の病態生理. 西田 博（東京女子医科大学）監修, 疾患別ナースのための心臓大血管手術：周術期管理のポイント（ハートナーシング 2012 年春季増刊）. 大阪：メディカ出版, 2012. p.109-20.

産婦人科学講座

教授：岡本 愛光	婦人科腫瘍学, 分子産婦人科学
教授：落合 和徳	婦人科腫瘍学, 腫瘍内分泌学, 中高年女性医学, 産婦人科手術
教授：落合 和彦	周産期の生理と病理, 婦人科細胞診, 更年期医学, スポーツ医学
教授：佐々木 寛	婦人科腫瘍学, 細胞診断学, 内視鏡手術, 放射線生物学
教授：磯西 成治	婦人科腫瘍学
教授：恩田 威一 (特任)	産科における栄養と代謝, 出生前診断学, 周産期医学
教授：神谷 直樹 (特任)	生殖内分泌学 (骨代謝)
准教授：新美 茂樹	婦人科腫瘍学
准教授：大浦 訓章	周産期医学
准教授：高野 浩邦	婦人科腫瘍学
准教授：山田 恭輔	婦人科腫瘍学
講師：高倉 聡	婦人科腫瘍学
講師：杉本 公平	生殖内分泌学
講師：田部 宏	婦人科腫瘍学
講師：矢内原 臨	婦人科腫瘍学

教育・研究概要

I. 婦人科腫瘍学

1. 卵巣明細胞腺癌の造腫瘍性に関与する新規 non-coding RNA の探索と機能解析

卵巣明細胞腺癌は従来の治療法に抵抗性であり, 予後不良であるため新たな治療ターゲットの同定が求められている。本研究では, 卵巣明細胞腺癌の造腫瘍性に関与する新規 non-coding RNA, ASBEL (antisense non-coding RNA in the ANA/BTG3 locus) を同定した。ASBEL は, 癌抑制遺伝子 ANA の第 1 exon に重なり, 逆向きに転写される non-coding RNA であると予想される。ASBEL を shRNA 及び siRNA を用いて knockdown すると卵巣明細胞腺癌細胞株 JHOC5 はアポトーシスを起こし, マウスへの移植実験では造腫瘍性が著明に低下する。ASBEL を knockdown すると ANA の mRNA は変化せずタンパク量が増加する事から, ASBEL は ANA をタンパクレベルで制御し, 造腫瘍性に関与している事が明らかとなった。また, ASBEL による ANA の制御メカニズムとしては, ASBEL が

核内で ANA の第 1 exon に結合して複合体を形成する事により ANA mRNA の細胞質への移動を阻害し、ANA の機能を抑制している事が明らかとなった。以上より、ASBEL は卵巣明細胞腺癌の有力な新規治療ターゲットとなる可能性があると考えられる。

2. 上皮性卵巣癌における CD147 発現に関する検討

膜糖蛋白 CD147 は細胞外マトリックスを基質とする MMP (matrix metalloproteinase) 発現を誘導し、癌の浸潤や転移に関与することが報告されている。上皮性卵巣癌における CD147 の発現および組織分化度を含む臨床病理学的因子との関連を検討する。上皮性卵巣癌 FIGO IIIc 期 25 例 (漿液性腺癌 22 例、類内膜腺癌 3 例) を対象とし、ホルマリン固定組織切片上で抗 CD147 抗体による免疫組織染色を行い、CD147 発現と組織分化度を含む臨床病理学的因子や予後との関連について統計学的解析を行った。組織分化度は WHO 分類, Shimizu-Silverberg 分類, M.D. Anderson 分類を用いて診断した。CD147 は 25 例中 21 例 (84%) に発現しており、いずれも腫瘍細胞に高発現していた。CD147 は組織分化度や他の臨床病理学因子との関連性は認めなかったが、全生存期間との逆相関を認めた ($p=0.0402$)。残存腫瘍や組織分化度 (WHO 分類, Shimizu-Silverberg 分類) も予後との相関を認めた ($p=0.0059$, $p=0.0378$, $p=0.0494$)。CD147 は臨床病理学的因子との相関を認めないものの、予後との相関を認めることより、上皮性卵巣癌における新たな予後因子としての可能性が示唆された。今後さらに明細胞腺癌を含む全ての組織型や全進行期における検討が望まれる。

3. 卵巣明細胞腺癌に対する IL-6 受容体を標的とした分子標的治療法の確立

これまでに我々は、上皮性卵巣癌 50 症例を対象とした免疫関連遺伝子の網羅的発現解析により、卵巣明細胞腺癌では IL-6 シグナル伝達経路が亢進していることを明らかにした。そこで卵巣明細胞腺癌に対する抗 IL-6 受容体抗体を用いた新たな治療戦略を検討することを目的とし研究遂行中である。

4. 子宮体癌に対する TC 療法の認容性に関する検討

現在、進行子宮体癌に対する標準的化学療法は AP 療法 (ADM+CDDP) であるが、より認容性の高い併用化学療法の適応が望まれる。初回治療として子宮全摘術を含む手術療法が施行された Ic~IV 期 (FIGO 1988) 子宮体癌 60 例に対して TC 療

法 (PTX: 180mg/m²+CBDCA: AUC6) を施行し認容性を評価した。60 例中 44 例 (73.3%) は 6 サイクルの治療を完遂した。血液および非血液毒性について NCI-CTCAE Ver.3 を用いて発生割合を求めた結果、子宮体癌に対する TC 療法の認容性が確認された。

5. 光過敏症軽減、入院期間短縮を目指した子宮頸癌に対する第 2 世代 PDT の開発

子宮頸部初期癌の子宮温存療法として、子宮頸部円錐切除術が標準治療となっているが、その後遺症として早産、低出生体重あるいは帝王切開のリスクが有意に高くなることから、2006 年の Lancet に報告されたため、子宮頸癌治療ガイドライン (婦人科腫瘍学会編, 2011) にも掲載され、円錐切除術の前に上記リスクのインフォームドコンセントが必要であることが記載されている。一方、子宮頸癌に対するフォトリンによる PDT では著効率 (CR 率) が 97% と高く、上記の産科的リスクが低いにもかかわらず、フォトリンによる光過敏症という副作用が強く入院期間も 3 週間と長いから、標準治療には至っていない。そこで、今回、光過敏症軽減、入院期間短縮を目指した子宮頸癌に対する第 2 世代 PDT の開発を行うことを目的とし、大阪大学工学部の粟津邦男教授との共同研究として、半導体レーザー (PD レーザー) と既存の子宮頸部照射用プローブとの接続実験を行った。まず、肺がん用のプローブを既存の子宮頸部照射用プローブとタンデムに接続するため、FC アダプターを製作した。次に、PD レーザー本体に肺がん用の直射用プローブを接続し、FC アダプターを介して、既存の子宮頸部照射用プローブを接続し、照射実験を行った。次年度より、光過敏症の少ないレザフィリンを用いた第 2 世代 PDT の第 I 相臨床試験を実施する予定である。

6. Robotic surgery を用いた婦人科がん術後下肢リンパ浮腫予防手術の開発

da Vinci 下リンパ管血管吻合術の開発のため倫理委員会の承認を得た。また、ブタを用いて da Vinci 下リンパ管血管吻合を施行した。ブタを気腹法で da Vinci をセット後、ブタの骨盤内後腹腔を切開し、大腿ソケイリンパ節を露出、次いでリンパ節を切除し、1 mm 径~2 mm 径のリンパ管を遊離した。大腿ソケイ外側の下腹壁静脈の枝で 1~2 mm 径の細い静脈を遊離した。リンパ管と細胞静脈を 10-0 ナイロン針糸で 4 ヲ所端々吻合を行った。用いた鉗子と持針器は心血管吻合用デバイスを用いた。縫合に要した時間は初めの 1 針目が 9 分間、2 針目が 5 分間、3 針目が 7 分間、4 針目が 4 分間で 4 針の端々

吻合ができた。

II. 周産期母子医学

1. 抗リン脂質抗体 (aPLs) による FGR の病態解明

aPLs は抗リン脂質抗体症候群 (APS) や習慣流産の原因となりうるものが良く知られているが、妊娠初期への影響のみならず、周産期合併症として、胎盤発育不全を本態とする妊娠高血圧症候群 (PIH) や重症胎児発育遅延 (FGR) をも引き起こすことが知られている。我々は、妊娠初期に投与すると流産が誘発されることが証明されている抗マウス B2GPI 依存性カルジオリピン抗体 (WBCAL1) を入手し、投与量や投与時期を検討することにより FGR モデルマウスの作成に成功した。この FGR マウスでは母胎血圧上昇より先に尿タンパクの上昇が確認された。抗体投与量の増量や早期投与を行うと、母胎血圧の上昇や早産も誘導し得た。このマウスの病理学的検索により、aPLs による胎盤機能不全や腎障害は免疫複合体の沈着よりも血管内皮障害が本態であることが判明した。aPLs の絨毛浸潤障害への補体の関与が知られているが、FC 受容体ノックアウトマウスでは FGR が誘導されなかったことより、我々は補体の関与と同時に aPLs と FC 受容体の関与を提唱してきた。臨床応用として aPLs による妊娠高血圧症の特徴的臨床経過 (この FGR モデルマウスでは FGR - 尿タンパク上昇 - BP 上昇の順) の後方視的な検討を行っているところである。

2. 産科合併症例における抗リン脂質抗体および凝固因子異常の関与

抗リン脂質抗体 (aPLs) 及び凝固因子異常が関与する産科合併症の病態を明らかにし、適切な管理法設定の資とするため、当科産科合併症例 (子宮内胎児死亡、妊娠高血圧症候群、重度子宮内胎児発育遅延、常位胎盤早期剥離) のうち、インフォームドコンセントを得られた症例に対し産後 2 ヶ月目以降に各抗リン脂質抗体 (抗カルジオリピン抗体、抗 CLbeta2GPI 抗体、ループスアンチコアグラント、抗フォスファチジルエタノールアミン抗体) と凝固因子 (Protein C, Protein S, 第 XII 因子) を測定し、臨床的因子並びに病理像との関連性を比較検討している。その結果、約 170 症例の既往産科合併症例のうち、99 パーセント以上の aPLs 陽性症例 (APS 群) は 12.7%、凝固因子異常症例 (CF 群) は 14.5% であった。さらにこの約 3 割を占める APS 群と CF 群で次回妊娠でのヘパリン療法の有用性が示された。しかし、CF 群では分娩週数を延長させ

るも FGR 傾向であり、胎盤病理では絨毛周囲フィブリン沈着の頻度が CF 群で APS 群に比べると高かった。次回妊娠に対するヘパリン療法のプロトコル変更 (投与量、期間など) の必要性が示唆された。

3. 抗リン脂質抗体陽性産科合併症例における胎盤病理の特徴

抗リン脂質抗体 (aPLs) は、胎盤機能不全による産科合併症の原因の一つであるが、その胎盤病理の特徴を知り、産科合併症に罹患した者の診断・後続妊娠への治療方針の資とするため、抗 ki67 抗体 (細胞増殖マーカー) と抗 cytokeratin7 (ck7) 抗体 (サイトトロホプラストマーカー) の二重免疫組織染色を行い、その陽性細胞数とフィブリンの沈着を、絨毛内および絨毛周囲に分けて観察した。その結果、aPLs が関与する産科合併症の胎盤ではトロホプラストの分化・増殖の著しい低下、非関与の胎盤では絨毛間腔でのフィブリン沈着が特徴的であることが明らかになった。

4. 切迫早産に対するカルシウム拮抗薬 (ニフェジピン) の安全性、有用性の検討

早産を防ぐことは周産期医療にとって最も重要な課題のひとつである。日本での切迫早産治療への子宮収縮抑制剤はその約 90% に塩酸リトドリンが使用されている。しかし、塩酸リトドリンの妊娠延長効果は投与後 48 時間に限定されるというのが世界的なエビデンスであり、欧米では副作用の多さから使用されない傾向にある。欧米では、塩酸リトドリンと比べて早産抑制効果が同等かそれ以上で、副作用が少なく、内服投与が可能なカルシウム拮抗薬 (ニフェジピン) が子宮収縮抑制剤として使用されているが、日本人に対するデータはほとんどない。日本人患者に対するニフェジピンの切迫早産治療薬としての安全性、有効性を評価する研究を行っている。

III. 生殖内分泌学

生殖医療部門の 2012 年度の研究では不妊症、不育症、内視鏡手術に関連するものであった。内視鏡手術については拳児希望患者に対する鏡視下手術後の不妊治療および周産期予後についての検討を行った。157 症例中軽微な合併症も含めると 11 症例で合併症を認めたものの、不妊治療から周産期予後にかけて悪影響が及ぼされているとは考えられなかった。不妊治療における情報提供についても検討した。我々が行っている体外受精の説明会での不妊患者への心理的援助の有用性が確認された。また、個別に行う不妊カウンセリングについても検討を行った。

医師が行う不妊治療カウンセリングにおいては遺伝学の知識の重要性、医師が治療終結において精神的支援を行うことの重要性が確認されたが、各職域での遺伝情報の取り扱いに関して今後もさらなる議論が必要であることが再確認された。抗ミューラー管ホルモンが累積妊娠率、流産率に影響を与えるかどうか検討した。その結果、AMH値は累積妊娠率を予測する有用なマーカーになりうる可能性が示唆された。また、AMH高値であれば流産率が減少する可能性が示唆された。

「点検・評価」

産婦人科学の3本柱である、婦人科腫瘍学、周産期母子医学、そして生殖内分泌学の分野を主な研究対象としている。個々の内容をみると、婦人科腫瘍学の分野では卵巣癌を対象とした研究が幅広く行われている。以前より盛んに研究されている分子生物学的解析に加え、より実地臨床に主眼を置いた臨床研究も行われている。周産期母子医学では、引き続き抗リン脂質抗体が関わる病態を詳しく解析しており、依然としてこの分野では本邦のトップレベルの研究を行っている。生殖内分泌学の分野では、卵巣予備能の指標となるAMHの研究や、不妊患者への心理的援助に関する研究を行っている。国際学会でも多くの発表がなされ、大学院生やレジデントの活躍も著しい。これからの進展が楽しみである。多忙な臨床医療の中、国内外で評価される研究を遂行している講座員の努力には敬意を表すが、さらに積極的な論文執筆への姿勢を求めたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Suzuki M, Isonishi S, Morimoto O, Ogawa M, Ochiai K. Effect of sophrology on perinatal stress monitored by biopyrrin. *Open Journal of Obstetrics and Gynecology* 2012; 2(2): 176-81.
- 2) Nagata C, Yanagida S, Okamoto A, Morikawa A, Sugimoto K, Okamoto S, Ochiai K, Tanaka T. Risk factors of treatment discontinuation due to uterine bleeding in adenomyosis patients treated with dienogest. *J Obstet Gynaecol Res* 2012; 38(4): 639-44.
- 3) Yanoh K, Hirai Y, Sakamoto A, Aoki D, Moriya T, Hiura M, Yamawaki T, Simizu K, Nakayama H, Sasaki H, Tabata T, Ueda M, Udagawa Y, Norimatsu Y. New terminology for intrauterine endometrial samples: a group study by the Japanese Society of Clinical Cytology. *Acta Cytol* 2012; 56(3): 233-41.
- 4) Hirata Y, Yanaihara N, Yanagida S, Fukui K, Iwada K, Kiyokawa T, Tanaka T. Molecular genetic analysis of nongestational choriocarcinoma in a postmenopausal woman: a case report and literature review. *Int J Gynecol Pathol* 2012; 31(4): 364-8.
- 5) Ueda K, Yamada K, Kiyokawa T, Iida Y, Nagata C, Hamada T, Saito M, Aoki K, Yanaihara N, Takakura S, Okamoto A, Ochiai K, Ohkawa K, Tanaka T. Pilot study of CD147 protein expression in epithelial ovarian cancer using monoclonal antibody 12C3. *J Obstet Gynaecol Res* 2012; 38(9): 1211-9.
- 6) Yanaihara N, Anglesio MS, Ochiai K, Hirata Y, Saito M, Nagata C, Iida Y, Takakura S, Yamada K, Tanaka T, Okamoto A. Cytokine gene expression signature in ovarian clear cell carcinoma. *Int J Oncol* 2012; 41(3): 1094-100.
- 7) Kunito S, Takakura S, Nagata C, Saito M, Yanaihara N, Yamada K, Okamoto A, Sasaki H, Ochiai K, Tanaka T. Long-term survival in patients with clear cell adenocarcinoma of ovary treated with irinotecan hydrochloride plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy. *J Obstet Gynaecol Res* 2012; 38(12): 1367-75.
- 8) Tanaka K, Takada H, Isonishi S, Aoki D, Mikami M, Kiguchi K, Iwamori M. Possible involvement of glycolipids in anticancer drug resistance of human ovarian serous carcinoma-derived cells. *J Biochem* 2012; 152(6): 587-94.
- 9) Koyama-Nasu R, Takahashi R, Yanagida S, Nasu-Nishimura Y, Oyama M, Kozuka-Hata H, Haruta R, Manabe E, Hoshino-Okubo A, Omi H, Yanaihara N, Okamoto A, Tanaka T, Akiyama T. The cancer stem cell marker CD133 interacts with plakoglobin and controls desmoglein-2 protein levels. *PLoS One* 2013; 8(1): e53710.
- 10) Yamada K, Tanabe H, Imai M, Jobo T, Kudo K, Fujiwara H, Nagata C, Furuya K, Suzuki M, Ochiai K, Tanaka T, Yasuda M. Feasibility study of paclitaxel plus carboplatin in patients with endometrial cancer: a Japan Kanto Tumor Board study (JKTB trial). *J Obstet Gynaecol Res* 2013; 39(1): 311-6.
- 11) Yanagida S, Taniue K, Sugimasa H, Nasu E, Takeda Y, Kobayashi M, Yamamoto T, Okamoto A, Akiyama T. ASBEL, an ANA/BTG3 antisense transcript required for tumorigenicity of ovarian carcinoma. *Sci Rep* 2013; 3: 1305.
- 12) Shimizu A, Kobayashi N, Shimada K, Oura K, Tanaka T, Okamoto A, Kondo K. Novel gene therapy viral vector using non-oncogenic lymphotropic her-

- pesvirus. PLoS One 2013; 8(2) : e56027.
- 13) Nakashima A, Yamanaka-Tatematsu M, Fujita N, Koizumi K, Shima T, Yoshida T, Nikaido T, Okamoto A, Yoshimori T, Saito S. Impaired autophagy by soluble endoglin, under physiological hypoxia in early pregnant period, is involved in poor placentation in preeclampsia. Autophagy 2013; 9(3) : 303-16.
- 14) 寒河江悟, 青木大輔, 進 伸幸, 岡本愛光, 青谷恵利子, 竹内正弘, 万代昌紀, JGOG・GCIG 委員会. 【婦人科がん－最新の研究動向－】婦人科がん 概論 国際共同研究の動向. 日臨 2012; 70(増刊 4 婦人科がん) : 59-66.
- 15) 丸田剛徳, 佐藤陽一, 鈴木啓太郎, 松岡知奈, 野口大斗, 野澤絵理, 佐々木香苗, 森川あすか, 上田 和, 磯西成治. 診断に苦慮した卵巣妊娠の 1 例. 東京産婦科会誌 2012; 61(1) : 155-8.
- 16) 山口乃里子, 高倉 聡, 關 壽之, 嘉屋隆介, 永田知映, 国東志郎, 斉藤元章, 矢内原臨, 山田恭輔, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 術前診断に難渋した後腹膜神経鞘腫の 1 例. 東京産婦科会誌 2012; 61(1) : 123-6.
- 17) 野澤絵理, 鈴木啓太郎, 永吉陽子, 佐々木香苗, 丸田剛徳, 佐藤陽一, 森川あすか, 上田 和, 磯西成治. 再生不良性貧血合併妊娠の管理 3 回の妊娠を経験した 1 例を通して. 慈恵医大誌 2012; 127(3) : 113-4.
- 18) 伊藤由紀, 松岡健太郎, 林 聡, 江川真希子, 田中忠夫, 左合治彦. 一絨毛膜性二羊膜性胎盤を用いた血管吻合検査方法の検討. 日周産期・新生児会誌 2012; 48(1) : 81-6.
- 19) 野澤絵理, 森川あすか, 上田 和, 永吉陽子, 佐々木香苗, 丸田剛徳, 佐藤陽一, 鈴木啓太郎, 磯西成治. MRI 検査が有用であった付属器摘出後に発症した同側間質部妊娠の 1 例. 東京産婦科会誌 2012; 61(2) : 237-41.
- 20) 黒田 浩, 久田裕恵, 黒田高史, 林 千景, 野口幸子, 佐藤佳世, 武隈桂子, 高橋一彰, 森本恵爾, 小曾根浩一, 田部 宏, 小竹 譲, 高野浩邦, 佐々木寛. 巨大卵巣腫瘍に対して当院で施行している小切開 No Leak 法の検討. 千葉産婦誌 2012; 6(1) : 10-4.
- 21) 杉本公平, 野口幸子, 鴨下桂子, 伊藤由紀, 横須賀治子, 飯倉絵理, 斎藤幸代, 川口里恵, 上田 和, 拝野貴之, 斎藤元章, 林 博, 高倉 聡, 大浦訓章, 岡本愛光, 田中忠夫. 拳児希望患者に対する鏡視下手術後転帰についての検討. 日産婦内視鏡会誌 2012; 28(1) : 471-5.
- 22) 永吉陽子, 上田 和, 佐々木香苗, 野澤絵理, 丸田剛徳, 佐藤陽一, 森川あすか, 鈴木啓太郎, 磯西成治. 傍尿道平滑筋腫の 1 例. 東京産婦科会誌 2012; 61(3) : 383-6.
- 23) 佐藤泰輔, 種元智洋, 松岡知奈, 松井仁志, 梶原一紘, 堀谷まどか, 土橋麻美子, 田中邦治, 和田誠司, 大浦訓章, 恩田威一, 岡本愛光. 羊水過多をきたした胎盤血管腫の 2 例. 東京産婦科会誌 2012; 61(3) : 408-12.
- 24) 鴨下桂子, 高野浩邦, 平井利明, 松井仁志, 田沼有希子, 佐藤佳世, 森本恵爾, 江澤正浩, 小曾根浩一, 飯田泰志, 青木宏明, 田部 宏, 栗田 正, 谷口 洋, 佐々木寛, 岡本愛光. 【卵巣成熟嚢胞性奇形腫】卵巣成熟嚢胞性奇形腫を合併した抗 NMDAR 抗体陽性脳炎の 1 例. 関東連産婦科会誌 2012; 49(4) : 675-8.
- 25) 鈴木啓太郎, 廣瀬 宗, 永吉陽子, 青木ひとみ, 大野田晋, 森川あすか, 關 壽之, 柳田 聡, 磯西成治. 産科領域における自己血貯血の適応についての検討. 東京産婦科会誌 2013; 62(1) : 138-43.
- 26) 多田聖郎, 和知敏樹. 骨形成不全症 Type I と出生前診断された児を経産分娩で出生した 1 例. 神奈川産婦科会誌 2013; 49(2) : 111-4.
- 27) 白石絵莉子, 山本瑠伊, 山下修位, 林 千景, 駒崎裕美, 高橋一彰, 堀谷まどか, 永田知映, 上田 和, 斉藤元章, 矢内原臨, 高倉 聡, 山田恭輔, 落合和徳, 岡本愛光. 卵巣原発ミューラー管性腺肉腫の 1 例 妊孕性温存手術後の再発. 東京産婦科会誌 2013; 62(1) : 116-21.
- 28) 杉本公平, 關 壽之, 鴨下桂子, 飯倉絵理, 堀谷まどか, 上田 和, 種元智洋, 斎藤元章, 拝野貴之, 林博, 和田誠司, 大浦訓章, 岡本愛光. 医師の行う不妊外来カウンセリングの現状. 日受精着床会誌 2013; 30(1) : 136-40.

II. 総 説

- 1) 磯西成治, 森川あすか, 上田 和. 【婦人科がん－最新の研究動向－】卵巣がん 卵巣癌の治療 化学療法 初回化学療法. 日臨 2012; 70(増刊 4 婦人科がん) : 601-4.
- 2) 矢内原臨, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 【婦人科がん－最新の研究動向－】卵巣がん 卵巣癌の発癌機構 分子機構. 日臨 2012; 70(増刊 4 婦人科がん) : 475-9.
- 3) 岡本愛光, 田部 宏, 落合和徳, 田中忠夫. 【卵巣癌治療の変遷と今後の展開】卵巣癌の最近の臨床試験の動向について GCIG 会議より. 産と婦 2012; 79(6) : 767-3.
- 4) 田中忠夫, 柳田 聡, 矢内原臨. 【婦人科がん－最新の研究動向－】絨毛性疾患 絨毛性疾患取扱い規約 2011, 改訂第 3 版. 日臨 2012; 70(増刊 4 婦人科がん) : 695-8.
- 5) 矢内原臨, 落合和徳. 【婦人科がん－最新の研究動向－】卵巣がん 卵巣癌の治療 治療概論. 日臨

2012 ; 70(増刊 4 婦人科がん) : 557-9.

- 6) 大浦訓章, 塚原麻帆, 松岡知奈, 佐藤泰輔, 梶原一紘, 佐藤陽一, 加藤淳子, 土橋麻美子, 田中邦治, 川口里恵, 種元智洋, 岡本愛光. 【産科外来診療フローチャート-妊婦管理のすべて-】 リスク因子の抽出と評価. 産婦の実際 2012 ; 61(7) : 959-64.
- 7) 森川あすか, 高倉 聡, 岡本愛光. 【産婦人科医療の未来の予測】 卵巣がんの発見と治療. 産婦の実際 2012 ; 61(10) : 1435-42.
- 8) 飯田泰志, 小田瑞恵, 岡本愛光. 【産婦人科の薬剤使用プラクティス: 病態別処方-婦人科編】 感染症尖圭コンジローマ. 産婦の実際 2012 ; 61(11) : 1580-3.
- 9) 佐藤佳世, 高倉 聡, 岡本愛光. 【婦人科がん手術の最前線】 卵巣がん 卵巣がんに対する staging laparotomy. 産婦の実際 2013 ; 62(1) : 59-66.
- 10) 飯田泰志, 田部 宏, 落合和徳. 【次世代の婦人科がん治療を展望する】 婦人科がんに対する分子標的薬の開発 JGOG 臨床試験. 産婦の実際 2013 ; 62(3) : 283-8.

III. 学会発表

- 1) 飯田泰志, 山田恭輔, 上田 和, 矢内原臨, 高倉 聡, 岡本愛光, 落合和徳, 田中忠夫. 卵巣明細胞腺癌細胞株 HAC 2 の低酸素培養によるグリコーゲン蓄積とその機序の解明. 第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会. 神戸, 4 月.
- 2) 森川あすか, 上田 和, 松岡知奈, 野口大斗, 佐々木香苗, 野澤絵理, 丸田剛徳, 佐藤陽一, 鈴木啓太郎, 磯西成治, 田中忠夫. 特殊組織型子宮体癌に関する臨床病理学的検討. 第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会. 神戸, 4 月.
- 3) 川口里恵, 伊藤由紀, 種元智洋, 和田誠司, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 抗リン脂質抗体陽性・陰性産科合併症例における胎盤病理の特徴. 第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会. 神戸, 4 月.
- 4) 高橋一彰, 佐藤佳代, 田部 宏, 武隈桂子, 森本恵爾, 黒田 浩, 小曾根浩一, 小竹 譲, 高野浩邦, 佐々木寛. 子宮体癌 Intermediate low risk 症例の後方視的検討. 第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会. 神戸, 4 月.
- 5) 杉本公平, 鴨下桂子, 伊藤由紀, 加藤淳子, 飯倉絵理, 斎藤幸代, 川口里恵, 橋本朋子, 拝野貴之, 林 博, 大浦訓章, 岡本愛光, 田中忠夫. 挙児希望患者に対する鏡視下手術後転帰についての検討. 第 64 回日本産科婦人科学会学術講演会. 神戸, 4 月. [日産婦会 2012 ; 64(2) : 495]
- 6) 川口里恵. 妊娠を通じて考える女性の健康 抗リン脂質抗体陽性不妊患者の妊娠管理. 第 30 回東京母性衛生学会学術集会. 東京, 5 月.
- 7) Katsumata N, Yasuda M, Isonishi S, Takahashi F, Michimae H, Kimura E, Aoki D, Jobo T, Kodama S, Terauchi F, Tsuda H, Sugiyama T, Ochiai K. Long-term follow-up and quality-of-life results of a randomized trial comparing conventional paclitaxel and carboplatin with dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer : JGOG 3016 trial. 2012 ASCO (American Society of Clinical Oncology) Annual Meeting. Chicago, June.
- 8) 矢内原臨. (コンセンサスミーティング: 子宮体がん治療ガイドライン・コンセンサスミーティング: 絨毛性疾患の治療) 絨毛性疾患治療ガイドラインの提案 絨毛癌群に対する手術療法・放射線療法の適応について. 第 52 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 東京, 7 月.
- 9) 矢内原臨, 田部 宏, 高倉 聡, 山田恭輔, 磯西成治, 落合和彦, 佐々木寛, 落合和徳, 岡本愛光. (ワークショップ 8 : 卵巣癌の術後化学療法) 卵巣癌に対する術後化学療法の検討-臨床進行期 I 期及び明細胞腺癌を中心に-. 第 52 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 東京, 7 月.
- 10) 坂本 優, 嘉屋隆介, 三宅清彦, 小屋松安子, 茂木真, 秋谷 司, 佐々木寛, 田中忠夫, 岡本愛光. (シンポジウム 3 : 女性特有のがん対策: 効果と課題) 子宮頸がんに対する各種対策の効果と課題. 第 20 回日本がん検診・診断学会総会. 東京, 7 月.
- 11) 杉本公平, 野口幸子, 鴨下桂子, 伊藤由紀, 横須賀治子, 飯倉絵理, 斎藤幸代, 川口里恵, 種元智洋, 斎藤元章, 橋本朋子, 林 博, 和田誠司, 大浦訓章, 岡本愛光. 当院における不妊外来カウンセリングの現状~遺伝相談から治療終結まで~. 第 30 回日本受精着床学会総会・学術集会. 大阪, 8 月. [第 30 回日本受精着床学会総会・学術集会プログラム・講演抄録集]
- 12) 斎藤元章, 杉本公平, 野口幸子, 鴨下桂子, 伊藤由紀, 横須賀治子, 飯倉絵理, 斎藤幸代, 上田 和, 拝野貴之, 林 博, 高倉 聡, 岡本愛光. 当院における挙児希望患者に対する内視鏡手術後転帰についての検討. 第 52 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 札幌, 9 月.
- 13) Tanabe H, Kitagawa R, Shibata T, Saito M, Takakura S, Okamoto A, Sasaki H, Ochiai K, Yoshikawa H, Kamura T. Does paclitaxel plus carboplatin (TC) substitute for paclitaxel plus cisplatin (TP) in cervical cancer without prior platinum treatment? (subset analysis of Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0505)). ESMO (European Society for Medical Oncology) 2012 Congress. Vienna, Sept.

- 14) 竹中将貴(国立がん研究センター研究所), 岩川麗香, 河野隆志, 岡本愛光, 佐藤亜以子, 小川誠司, 横田 淳. 肺小細胞がんにおけるゲノム網羅のコピーナンバー解析 (Genome-wide copy number analysis in small cell lung cancer). 第71回日本癌学会学術総会. 札幌, 9月.
- 15) 斎藤元章. 卵巣癌・卵管癌・腹膜癌のNAC症例の検討. JSAWI (Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging) 第13回シンポジウム. 淡路, 9月.
- 16) 岡本愛光, 田部 宏, 上田 和, 斎藤元章, 矢内原臨, 高倉 聡, 山田恭輔, 高野浩邦, 磯西成治, 落合和彦, 佐々木寛, 落合和徳. (シンポジウム06: 婦人科がん治療の過去と未来) 卵巣がん治療: 近未来展望標準的治療から個別化治療へ. 第50回日本癌治療学会学術集会. 横浜, 10月.
- 17) Isonishi S, Morikawa A, T Seki, Ueda K, Saito M, Saito M, Suzuki K, Yanagida S. Characteristics of mitochondria in platinum resistant human ovarian carcinoma cells. 11th International Symposium on Platinum Coordination Compounds in Cancer Chemotherapy. Verona, Oct.
- 18) Sakamoto M, Kaya R, Miyake K, Motegi M, Koyamatsu Y, Akiya T, Ochiai K, Tanaka T, Okamoto A. Photodynamic therapy for recurrent or residual uterine cervical cancer after conization. 14th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS). Vancouver, Oct.
- 19) 鴨下桂子, 川口里恵, 野口幸子, 伊藤由紀, 横須賀治子, 飯倉絵理, 斎藤幸代, 坪野貴之, 林 博, 杉本公平, 大浦訓章, 岡本愛光, 田中忠夫. 抗ミューラー管ホルモン (AMH) 値と生児獲得率・流産率の相関検討. 第57回日本生殖医学会学術講演会・総会. 長崎, 11月.
- 20) 柳田 聡, 廣瀬 宗, 永吉陽子, 青木ひとみ, 野澤絵理, 關 壽之, 森川あすか, 鈴木啓太郎, 磯西成治, 岡本愛光. AFP産生卵巣明細胞腺癌における腹水セルブロックの免疫染色. 第51回日本臨床細胞学会(秋期大会). 新潟, 11月.
- 安全: チームで取り組むヒューマンエラー対策. 東京: メヂカルビュー社, 2012.
- 3) 大浦訓章. 第5章: 異常分娩の管理と処置 k. 膣・会陰裂傷. MFICU (周産期医療) 連絡協議会編著. MFICU マニュアル. 改訂2版. 大阪: メディカ出版, 2013. p.372-9.

IV. 著 書

- 1) 大浦訓章. PART 2. 栄養成分別・病態別栄養管理 I. エネルギーコントロール 8. 妊娠高血圧症候群疾患の概要と治療. 宗像伸子 (東京家政学院大学), 宮本佳代子 (千葉県立保健医療大学), 横山淳一. ビジュアル治療食300: 栄養成分別・病態別栄養食事療法. 東京: 医歯薬出版, 2012. p.172-3.
- 2) 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部, 落合和徳, 海渡 健編. チームステップス (日本版) 医療